

「パウロ、ローマに到着する」

2016年10月14日

使徒言行録 28章 11節～16節 三か月後、わたしたちは、この島で冬を越していたアレクサンドリアの船に乗って出航した。ディオスクロイを船印とする船であった。わたしたちは、シラクサに寄港して三日間そこに滞在し、ここから海岸沿いに進み、レギオンに着いた。一日たつと、南風が吹いて来たので、二日でプテオリに入港した。わたしたちはそこで兄弟たちを見つけ、請われるままに七日間滞在した。こうして、わたしたちはローマに着いた。ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベルネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた。わたしたちがローマに入ったとき、パウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。

地中海の嵐「エウラキロン」に遭遇し、14日間も漂流したが、一人の命も失うことなく、無事にマルタ島に上陸した。マルタ島で、パウロは癒しの奇跡を行い、住民から篤い信頼を得、3ヶ月を過ごした。

冬を越して、航海できる季節になり、パウロたちはディオスクロイを船印とするアレクサンドリアの船に乗って、ローマに向けて出港した。ディオスクロイはゼウスとレダとの間に生まれた双子カストルとポルックスで、船の守護神として、木造の双子神がへさきに掲げられていたのであろう。マルタ島を出港した船はシチリア島の南東部のシラクサに寄港し、3日間、滞在した。シラクサ港から海岸沿いに進み、イタリア半島の最南西のレギオン港に着いた。1日経つと、航海に適した南風が吹いてきたので、2日でプテオリに入港した。ここで、同信の兄弟たちを見つけ、請われるままに7日間滞在した。パウロは護送中であったが、自由に休暇がとれる旅行者のようであった。ローマの市民権を持つ特権があったからであろう。

プテオリからローマまではアッピア街道 200 kmの旅路である。健脚ならば5日で踏破できる距離である。パウロはコリント教会から55年～56年頃、ローマ教会宛に手紙を書き送っている。ローマ教会の信徒たちはパウロのことを知っており、また、護送されてローマに来ることも伝え聞いていた。彼らは、ローマから65 km離れた宿場アピイフォルムと、49 km離れた宿場トレス・タベルネまでパウロを迎えに来た。パウロは彼らの出迎えを受け、神に感謝し、勇気づけられた。パウロとローマ教会員は初めて出会い、喜び、神の導きに感激したのであろう。プテオリでも同信の兄弟を見つけ、請われて7日間も滞在している。一度も会ったことがなくても、同信の友は旧知の友のように親しみが沸くことは私たちがしばしば経験する喜びである。65 kmも離れた所まで出迎えを受けて、パウロは勇気百倍であった。

パウロたちは何日かかったか分からないが、ローマに到着した。パウロはローマ教会を訪ねたいと熱望していた。全き自由の身ではなかったが、安全を保障された護送によって、念願のローマにたどり着き、何を思ったであろうか。皇帝から無罪の判決を受け、世界の中心のローマで福音宣教をしたいと思ったことは確かであろう。

ローマに入ったパウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。友人たちとの面会を許された軟禁状態に置かれたのである。パウロにとって、置かれた場が、即、宣教の場であった。